

青いかさ

【低学年 1 - 1】

資料の提示方法を工夫した指導

(1) 主題名 自制心をもって [1 - 1]

(2) ねらい わがままなふるまいをせず、相手の気持ちや立場を考える心情を育てる。

(3) 資料名 「青いかさ」

(4) 授業の展開例

	学習活動	主な発問と児童の心の動き	留意点
導入	1 連想ゲームで自由な発想をもつ。	連想ゲームをする。 ・青い物 ・雨に関する物	リラックスさせ、楽しい雰囲気で授業に入る。
展開	2 資料を読んで登場人物の気持ちを考える。	傘でつつかれたたけるくんの気持ちを考えてみよう。 ・いやだった。 ・くやしい。 たたきかえしてしまったたけるくんの気持ちを考えてみよう。 ・しかたない。 ・口で注意すればいい。 たけるくんはなぜ「ぼくがとっくるよ」と、言ったんだろう。 ・自分が、かさをとばしてしまったから。 ・たたき返してしまって反省したから。	場面ごとに分割し、提示する。登場人物や傘のペーパーサートを用い、読み聞かせる。 自分の登下校の様子を振り返り、たけるくんのとった行動を考えさせる。 責任を取ろうとした、たけるくんに共感するとともに、2人の軽率な行動を反省するようにさせる。(ワークシートに考えを書かせる。)
終末	3 その後の2人の会話を考える。	この後、まさしくんはたけるくんとどんな話をしたのだろう。 ・たけるくんが車にひかれたかと思った。ごめんね。(まさし) ・ぼくこそ、たたき返してごめん。雨の日は危ないから気をつけていこうね。(たける)	資料の中から2人の役割演技を通して考えていくが、自分たちの登校の様子と重ね合わせて会話をつなげていく。
	4 教師の説話を聞く。	・ふざけず、落ち着いて行動していくことが大事なんだね。	落ち着いて行動することの大切さを実感させる。

青いから

一年生のよしこさんとたけるくん、そして、一年生のまさしくんは、こつも三人で登校しています。

けさは、あいにくの雨でかさをかぶってこましたが、しばりへつて雨がやみました。

「うしろからつづくのは、やめろよ。」

たけるくんが、まさしくんを注意しました。

「まさしくん、かさでこたずらしきやだめだよ。」

と、よしこさんもいました。

「べえ。」

と、まさしくんは、したを出して、またたけるくんのかたをかさでつきました。

「いたいなあ。もう。」

と、がまんしていたたけるくんもむりやりこまれこへんのかさを、せりこのけました。

すると、まさしくんの青いかさは、ふわりと車道にとろでいました。
「あっ、たいへん。かさが車にひかれちゃうよ。」

と、よしこさんがけびました。

「ぼくのかさが……。」

と、まさしくんはなき田しました。

「ぼくがとつてくるよ。」

と、たけるくんは車道の中に入つていきました。

「あぶないからだめよー。」

と、よしこさんがけびました。

そのときです。

「キキキーッ！」と、大がたトラックが、きゅうブレーキをかけてたけるくんの手前でとまりました。おどろいたたけるくんは、その場でころんでしまいました。

「なに、やつてるんだー。あぶないじゃないか。」

うんてん手さんが、車から大きな声で注意をしました。たけるくんの田から

は、大つぶのなみだがながれ、ひざとひじからば、血がにじんでいます。

「たけるくん、『じめんね。』

と、まさしくんはつぶやきました。

「もうとび出すんじゃないぞ。」

と、うんてん手さんはいながら、まさしくんに青いかさを、わたしてくれました。

活用に生かすための実践報告

「青いかさ」

1 主題の設定

- ・相手の気持ちや、自分の立場を考えず、思いのままに振る舞うことが、友だちやまわりにいる人に迷惑をかけてしまうことや思わぬ大けがにもつながるということを考えさせるためにこの資料を作成した。
- ・自制心を養い、日々交通安全に気をつけて登校しようとする態度を養いたい。また、ふざけたり、慌てたりせずに落ち着いて判断し行動することの大切さを指導したい。

2 指導過程の工夫

- ・役割演技をさせることにより、傘で「つかれる側」と「つつく側」の気持ちに一層近づいて考えさせることができる。
- ・一度に資料提示するよりも、分割提示することにより、ヒヤッとした生活体験に近いものを実感させることができ、深く考えさせることができる。また、登場人物や傘をペーパーサートを用いて提示することにより、児童の関心を高めることができる。

3 発問の工夫

- ・「たたきかえしたたけるくんをどう思いますか。」は、たけるくんの気持ちはよく分かるなど実生活と結びついた意見を引き出しやすい。さらに、でもそれではいけないのではないかと深まりのある意見交流につなげていくことができる。
- ・「なぜ、『ぼくがとってくるよ。』といったんだろう。」という中心発問は、児童にとって考えやすい。

4 児童の反応（授業後の感想）

【第1場面の役割演技をして】

- ・かさでつつく方（まさし）は、嬉しそうな顔つきであった。
- ・つかれる方（たける）は、いやそうな顔つきであった。
- ・両者の気持ちを聞くと、つつく方は楽しかった。つかれた方はいやだった、腹が立ったという反応があり、役割交代させ両者の気持ちの違いを体験させることにより、より深く考えていくことにつながった。

【たたきかえしたたけるくんについて】

- ・「気持ちはよく分かる」とか、「当然である」、「気持ちは分かるが口で言うべきである」、「腹が立つのは分かるが自分の気持ちに、ストップをかけるべきだ」など幅広い考えが出せた。

5 実践者からの一言

- ・わがままをしたり、からかったり、ふざけたりなど安易な行動は、まわりの人や友だちにいやな思いをさせたり迷惑をかけるということについて考えさせることができた。
- ・からかわれたりした時の対処の仕方を考えることができた。
- ・毎日の登下校が、危険と背中あわせであること。安全なようで安全でないことに気が付き、自分の登下校の様子を反省させることができた。

（東城小学校 瀬尾恵子）